

LOOKUP関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

LOOKUP関数とVLOOKUP関数の違い

LOOKUP関数とVLOOKUP関数の違い

LOOKUP関数は、Excelの初期からある関数で、VLOOKUP関数の「原型」とも言える存在です。現在、一般的な検索にはVLOOKUPを使いますが、LOOKUPには特有の性質があります。

特徴	VLOOKUP関数	LOOKUP関数（ベクトル形式）
検索方向	縦方向のみ	縦・横 どちらでもOK
データの並び	順不同でOK（FALSEの場合）	昇順（小さい順）が必須
引数の数	4つ	3つ（シンプル）
強み	一般的なデータ検索	最後のデータの取得、左側の検索

 **結論：** 普段はVLOOKUPを使い、左側の検索など「VLOOKUPでは対応できない特殊なケース」でLOOKUPの出番が回ってきます。

基本の使い方（ベクトル形式）

基本の使い方（ベクトル形式）

LOOKUP関数には2つの書き方がありますが、実務で使うのは「ベクトル形式」一択です。「探す範囲」と「結果の範囲」を別々に指定します。

=LOOKUP(検索値, 検査範囲, 対応範囲)

引数	内容
① 検索値	何を探すか（例：商品ID）
② 検査範囲	どこから探すか（例：A列） ※昇順に並んでいる必要あり
③ 対応範囲	何を取り出すか（例：C列） ※検査範囲と同じサイズである必要あり

 **数式例：** =LOOKUP(1005, A:A, C:C)（A列から1005を探し、対応するC列の値を返す）

【活用①】 VLOOKUPのできない「左側」検索

【活用①】 VLOOKUPのできない「左側」検索

VLOOKUP関数は「検索値より右側」のデータしか取れませんが、LOOKUP関数は「左側」のデータも取得できます。

シナリオ： C列の「商品名」から、A列の「商品ID」を逆引きしたい。

数式： `=LOOKUP("商品A", C:C, A:A)`

解説： 「検索範囲（C列）」と「対応範囲（A列）」を独立して指定できるため、列の左右関係を気にする必要がありません。

※ただし、検索範囲（この場合はC列）が必ず昇順（小さい順または五十音順）に並び替えられている必要があります

【活用②】 「最新（最後）データ」を取得する

【活用②】「最新（最後）データ」を取得する

これこそが近似一致を返すLOOKUP関数の真骨頂です。「データが追加されていく表で、常に入力済みの『最新（最後）』のデータを表示したい」という場合に威力を発揮します。

シナリオ：A列に日々データが追加される。常に「一番下のセル」の値を表示したい。

数式：`=LOOKUP(10^9, A:A)`

解説（超特大の数値を検索するテクニック）：

1. 検索値に、A列のデータ内に存在しないような巨大な数値（10の9乗など）を指定します。
2. LOOKUP関数は近似一致の性質上、その数値以下の「最大値」を探そうとします。
3. 結果として、「一番最後に入力されている数値」がヒットします。
※このテクニックは、在庫管理や日報などで非常に役立ちます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。